



「view-80」(2025)

岐阜市歴史博物館分館

加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1丁目46番地(岐阜公園内)

開館時間:午前9時—午後5時(午後4時30分までにご入館ください)

休館日:月曜日【11月24日】は開館【11月25日】

観覧料:高校生以上 310円(団体 250円)、小中学生 150円(団体 90円)※()内は20人以上の団体料金

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、特定医療費(指定難病)受給者証又は登録者証、

小児慢性特定疾病医療受給者証又は登録者証の交付を受けている方とその介護者1名様は無料。ミライID可

※岐阜市内在住の70歳以上の方は、証明書などを提示すると無料。

※岐阜市内の小中学生の方は無料。

※家庭の日【11月16日、12月21日】に入館する中学生以下の方と、同伴する家族(高校生以上)の方は無料。

2025 11.12_{WED}▷12.21_{SUN}

矢橋頌太郎展

矢橋頌太郎 展 花園

そこから見えてくる風景

『VIEW』シリーズは、いつも身近にいてくれた祖母との思い出からはじまった。彼女の晩年の姿と向き合うなかで経験した、得難い感覚を捉えようとしている。その時のイメージに一番近い場所だと感じた「子どもの頭」を立体視し、三次元上の座標軸を入れ替えて、真俯瞰に見た姿を色鮮やかに描いている。時にはベッドに横たわる人を、頭頂部側から描くことで、浮かび上がってくる情景に挑んだメランコリックな作品もある。つまり、矢橋はずっと人物を描き続けてきた。そしてそこから視点を入れ替えることで見えてくる不確かな心象風景を、自分の居場所を探し眺めるかのように制作してきた。

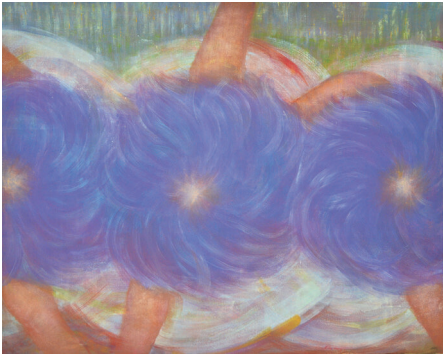
ローラー掛けによる暗色系絵具を下塗りとする表面は、ビロード地のような見た目に反し、ざらついていて、随分と描きづらいに違いない。矢橋は石膏が混ぜられたこの下塗りについて、「実家の漆喰壁に似た乾いた土の雰囲気が好きで」と説明してくれた。時折、カンヴァスを回転させながら描線の出発を変えて、人の身体から得た表現の端っこを捉えている。そこからしか導けない記憶のかけらや、描く理由があるのだろうか。

画面は明るい純色を重ねて意識を交感させながら、透明感をもって、束縛されない自由を得るかのような筆勢で覆われている。そして表面の突っただけをやすり掛けして、砂粒のような独特のマチエールが作られる。全体に散りばめられた光の粒は、ゆっくりと状況を変化させていく映像のようでもあり、幻視のようでもある。そして色に抗うイメージとの交錯に、別の世界への連なりを思う。充足した寂しさが色を求めるように、自然に深沈する時間が、絵から生まれてくる。

それにしても、油絵の特性である伸びやかさを否定するかのような、それでも残ってくるものを少しずつ掬い取るかのような描き方をするようになったのは、何故だろうか。矢橋は祖父の蒐めた絵画に接しながら絵を描く仕事を志した。日頃目にする機会の多かった洋画から、随分と影響を受けたに違いない。しかし美術大学に進学してすぐに、とてつもなく広い表現領域があることを知る一方で、慣れ親しんだ洋画の世界はどこにもないように感じたという。この時の自分を全部否定して、それでも残っている記憶の断片から描き始めたことが、今に繋がっているのかも知れない。

矢橋の探求心は、描くことでしか表すことができない茫漠無縁な遊行世界の境地へと向けられているが、その前に、イメージを具体的に細密描写した世界への憧れを常に持ち続けている画家である。制作の途中で、二つの相反する世界が重なり合うこともある。シンメトリーに反復する景色が絵画的な構図として現れ始めると、線の太さや歪さからくる不確かな世界への興味は、カンヴァス上の筆先に託され、精巧緻密なイメージへの欲求は、大学卒業と共に始めたデジタル環境での作画(製図、図案)に委ねられていく。描く感覚や物質感のない無機質な世界で、一顧作画に明け暮れると、また自分を取り戻すようにカンヴァスの前に立つ。現実のフィジカルな世界とデジタルによるサイバー上の世界を行き来しながら、描くという生き方を選択した彼の現在が展示される。

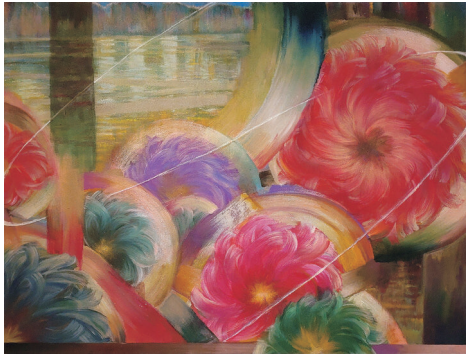
岐阜県美術館学芸員 廣江泰孝



「view-43」(2019)



「view-71」(2023)



「view-72」(2023)



「view-76」(2024)



「view-77」(2024)



「view-81」(2025)

岐阜市歴史博物館分館 加藤栄三・東一記念美術館

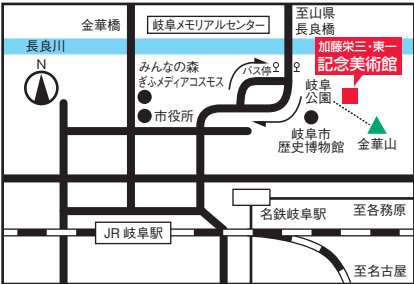
〒500-8003 岐阜市大宮町1丁目46番地(岐阜公園内)

交通案内
JR岐阜駅・名鉄岐阜駅前から、長良橋方面行きのバスにご乗車ください。「岐阜公園・岐阜城」で下車(所要時間約18分) 徒歩約5分(岐阜公園内・ロープウェイ山麓駅横)

駐車場
岐阜公園北側の堤外駐車場(有料)をご利用ください。駐車台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



ホームページ



第1展示室

加藤栄三・東一 収蔵作品展

令和7年
10月2日(困)～12月21日(回)

矢橋頌太郎 作家歴

- 2011年 武蔵野美術大学 造形学部 油絵学科 卒業
- 2012年 現代美術の新世代展2012 (極小美術館) 優秀賞受賞 (選考 篠田守男筑波大学名誉教授、青木正弘前豊田市美術館副館長、他)
- 2013年 「リアリズムの深層」展(極小美術館)
- 2014年 初個展 「矢橋頌太郎」展(極小美術館) 個展 「矢橋頌太郎」展(ギャラリーうちやま)
- 2015年 富山トリエンナーレ 2015(神通峡美術館) 優秀賞受賞 (選考 篠田守男筑波大学名誉教授、酒井忠康世田谷美術館館長、絹谷幸二東京芸術大学名誉教授) ミズマクおおがき2015 StartingPoint 大垣の新進美術家たち(大垣市文化事業団主催 スイビアセンター)
- 2016年 宇宙の連環として2016(極小美術館) 個展 「矢橋頌太郎」展(極小美術館)_第2回 個展 「矢橋頌太郎」展(ギャラリーうちやま)第2回
- 2017年 現代美術の新世代展2017 (極小美術館)
- 2018年 個展 「頭上漫々」展(名古屋画廊)

- 2019年 現代美術の視点(極小美術館) 第2回アートハウスおやべ 現代造形展2019 入選
- 2020年 MUUSA-BI展(極小美術館) 個展 「矢橋頌太郎」展 (極小美術館)_第3回
- 2021年 現代美術の作法 2021(極小美術館) 個展「頭状花序」展(名古屋画廊) 清須市第10回はひ絵画トリエンナーレ(清須市はるひ美術館)
- 2023年 ファン・ゴッホと日本近現代アート展(名古屋画廊) MUSA-BI展 in TOKYO (アーツスペース羅針盤)
- 2024年 ファン・ゴッホと日本近現代アート展 No.3ー素描する眼ー(名古屋画廊)
- 2025年 ファン・ゴッホと日本近現代アート展 No.5(名古屋画廊) 個展 「矢橋頌太郎」展 (極小美術館)_第4回